

「鉄の総合基地に潜入！」 ～新日鐵住金・工場見学ツアー～

2017年2月17日実施 JGA 第二支部研修レポート

2017年2月17日(金)に第二支部で、愛知県東海市にある「新日鐵住金・名古屋製鉄所」にて研修を実施致しました。当初、マイクロバスを使用して16名定員の予定でしたが、予想を上回る参加申し込みをいただき、大型バスに変更しました。結果、直前に3名のキャンセルが出たものの、合計28名(会員18名、非会員8名、委員2名含む)が参加となりました。会長、両副会長ならびに矢木野前会長、藤尾常務のご参加もいただき、実りある研修となりました。また、東京方面、関西方面からも広くご参加いただきました。

名古屋駅で集合後、バスで約1時間の移動でしたので、研修委員が「名古屋の歴史、産業、名古屋人、名古屋めし、今後の注目事項」などの話題を、車窓からの景色の説明も含め、参加者にご紹介していきました。

到着後、まずホールにてご案内の方から概要の説明を伺い、DVDを視聴して、基本的な知識を得ました。その後、1つ1つの工程をバスから、また実際に降りて見学して行きました。

鋼を作る最初の段階である、蒸気を上げる巨大な高炉(中では鉄鉱石+石炭+石灰石が溶けている)、そして、10年前まで実際に使用していたというマンテル(高炉本体の一部)を間近に見学。今度はバス車内から、道を走るトピードカー(鉄鋼を約1400度に保ちながら輸送する車)、積み上げられたスラブ(鋼片)を目にしながら、6,310,000㎡もの広大な敷地内を進んでいきました。敷地内には、レストラン、診療所、体育館、踏切、そしていくつもの信号があり、ため息の連続でした。圧巻がスラブを圧延する工程でした。工場内を約1200度の真っ赤な鉄の塊が、轟音を上げながら、まるで生き物のように行き来する様は、呆気にとられるほどの迫力でした。見学場所になっている2階まで熱が伝わり、顔が火照るような感覚を体験しました。厚さ25センチのスラブを2-3ミリに圧延するのにたった約7分だそうです。

完成してロールケーキのように巻き取られた、長さ1000m以上のロールは1日に約700-800本製造され、主に自動車の部品として使用されます。今回の研修を通して、このような製造業が名古屋、ひいては日本の経済を支えているのだと実感しました。

帰りのバスでは、参加者全員にガイドネタを披露していただき、今後のネタのヒントを共有できて楽しいひと時を過ごしました。皆様のご協力をいただき、無事に名古屋駅にて解散致しました。

